

工学院経営工学系：井上研究室の紹介（2022年度向け）
超スマート社会推進・卓越大学院プログラム参加研究室

井上研究室 HP

[K.Inoue labo \(titech.ac.jp\)](http://k.inoue.labo.titech.ac.jp)

教員紹介：井上光太郎

工学院経営工学系・教授、工学院副学院長（来年度、工学院院长）

東京大学卒、マサチューセッツ工科大学大学院修士、筑波大学大学院博士

専門：ファイナンス、コーポレートガバナンス（企業統治）

研究テーマ：企業の株主構造の投資行動、イノベーション、M&A、ESG など。

学会：日本ファイナンス学会・会長（現職）、

2021年度まで Asian Finance Association・Board Member、行動経済学会・理事

著書：ファイナンス（中央経済社、ベーシック+）、M&A と株価（東洋経済新報社）など

研究室構成（2021年度）

教員：井上光太郎、助教：木村遥介（東大・博士（経済学）、財務省を経て着任）

博士：3名（全員社会人、国内外でMBA・修士号取得後、博士課程進学）

修士：2年生5名、1年生7名（留学生1、外部進学3名）

学部：5名

女性比率：博士、修士、学部とも3割以上

ゼミ活動

学部ゼミ：全体ゼミ（週2回）、サブゼミ（輪読ゼミ）、コアタイム無し

研究活動目標：学会報告、研究結果で実務界にインパクトを与える知見を創出

ファイナンス学会、行動経済学会、Asia Finance 学会での発表、論文投稿にチャレンジ

2020年11月 井上研B4の3名（武田・程・林）が Bloomberg Investment Contest 2020
で34校80チーム中ファイナリスト8チームに入り入賞。

[bloomberg.pdf \(titech.ac.jp\)](#)

[ブルームバーグ投資コンテスト2020を振り返って - Bloomberg Japan](#)

2021年11月 井上研M1&B4のグループが Bloomberg Investment Contest 2020 で34
校80チーム中ファイナリスト8チームに入り連続入賞。

[「ブルームバーグ投資コンテスト2021」ファイナリスト決勝大会&表彰式 Registration \(onlinexperiences.com\)](#)

2021 年第 1 回工学院 ExS Challenge (持続可能性事業構想コンテスト：実行委員長：井上)
井上研チーム (代表: 林可欣)

[工学院が第 1 回 E×S Challenge \(イー・バイ・エス・チャレンジ\) を開催 最初のピッチコンテストで 20 グループの学生や若手研究者が事業構想を発表 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)

2021 年 6 月 日本ファイナンス学会全国大会開催 (東工大大岡山キャンパス)
学生論文の学会発表：過去 3 年で 13 回の査読付き国内学会報告、4 回の査読付き国際学会発表：ファイナンス分野の学生活動で日本トップクラス
学生との共著論文の学会報告・査読付き論文発表一覧
[井上光太郎 研究業績一覧 | T2R2 東京工業大学リサーチリポジトリ \(titech.ac.jp\)](#)

留学：過去に中国清華大とのダブル学位プログラムに 2 名参加、2022 年度ミュンヘン工科大、スウェーデン国立工科大、チューリッヒ工科大学に 3 名が留学予定など。

研究室研究テーマ

ファイナンス、企業統治、金融、金融・財務データ分析
企業の株主構造と企業統治、機関投資家の投資行動、銀行行動、ESG 投資、企業の事業ポートフォリオ最適化行動、行動ファイナンスなど。
参考：井上の日本ファイナンス学会会長講演
<http://t2r2.star.titech.ac.jp/rrws/file/CTT100859302/ATD100000413/>

研究室の基本的指導方針

第一級の論文作成を目指す中で理論を知り、データ分析能力を高め、将来の経済活動や研究活動におけるチャレンジに備える。

したがって、分析手法の研究や知識習得より、実証研究の中で学ぶことを重視。

研究テーマをある程度絞ることでゼミ生間のシナジーを創出 (データ蓄積、分析手法)

現状の研究テーマ (所属学生の研究テーマ)

1. 企業の保有構造の変化とその企業統治への影響の検証 (機関投資家の行動研究)
2. ESG (Environment, Society, Governance) 投資の企業行動・企業価値の分析
3. 企業の投資行動 (M&A、研究開発投資) や事業ポートフォリオ再編の経済効果の検証
4. 有価証券報告書などを対象にしたテキスト分析と企業行動、株価プライシングの検証
5. 銀行の取引データ解析と経営戦略 (卓越大学院プログラム)

実務界との連携：

上記1および2は国内外の大手機関投資家5社、30% Club (Gender Diversity)、金融コンサルティング会社 IR Japan との共同研究や連携プロジェクト、5は大手銀行との共同研究

ゼミ生の就職先

就職は投資銀行、資産運用機関、戦略コンサルなどを中心に非常に良好

過去3年就職先：海外 Ph.D、野村証券（投資銀行部門）3名（うち1名は現在はゴールドマンサックス証券に移籍）、モルガン・スタンレー証券（投資銀行）、JP モルガン（投資銀行）、みずほ証券（投資銀行部門）3名、大和インベスト（資産運用）、外資系ヘッジファンド（資産運用）、東京海上日動（運用）、SMBC 信託（運用）、野村総研2名（戦略コンサル1名・IT コンサル部門1名）、大和総研（戦略コンサル）、デロイト（ファイナンシャルコンサル）2名、PWC（ファイナンシャルコンサル）、ドリームインキュベータ（戦略コンサル）、三菱商事、三井物産、ソニー、電通、富士通、花王

なお、本研究室は研究より就職を優先した活動や、学期中の就職目的のインターンシップへの過度の参加はサポートしない。

ゼミ志望者への期待

ファイナンスやファイナンスを活かした企業活動に人生のフィールドとしての興味を持ち、統計と現代ファイナンス理論の基礎を習得済みで地道なデータ構築と分析を厭わず、研究にどっぷりとつかりたい学生を期待する。なお、研究内容の一部は企業との共同研究でチームワークとなることがあり、積極的なチームプレーヤーとなれることも要求される。読む論文の9割以上は英語論文であることも留意が必要。

以上